

Newsletter for JADR

I. 第92回国際歯科研究学会 (IADR) ケープタウン大会から

JADR 会長 高橋 信博

(東北大学大学院歯学研究科 口腔生化学分野)

去る6月25日から28日にかけて南アフリカ共和国ケープタウンにて、第94回国際歯科研究学会 (IADR) 学術大会が開催されました。日本からはどこを経由しても、機中滞在時間だけで24時間にかかる遠隔地でしたが、JADRからも多くの参加者がありました。

「アパルトヘイト」が廃止され、ネルソン・マンデラ政権による民主化が進んで早20年、昨年末のマンデラ大統領の死去により政治不安が危惧されているものの、南アフリカの南端に位置するケープタウンは、美しい自然に囲まれた落ち着いた風情の国際都市でした。冬とはいえ、最高気温は20度近くまで上がり、比較的乾いた空気と鮮やかな日の光は、地勢的にアメリカ西海岸などと同様の「地中海性気候」に属していることを思い出させてくれます。港に面した街は開放的で明るく、ヨーロッパ的な高層建築群に黒、金、赤、緑というアフリカの伝統的な原色で彩色された建造物がアクセントのように配置され、独特の景観を生み出しています。街の背後には、2億年前の旧大陸、ゴンドワナ大陸が分裂した時の名残といわれる標高1000メートル級のテーブル・マウンテンが切り立った威容で迫っており、アフリカ大陸の壮大さを感じることができます。

今回のIADR大会でまず特記すべきことは、安孫子宜光先生 (日本大学教授) が、IADR 会長に就任されたことです。任期は本大会終了時から2015年3月のIADR ボストン大会終了時までとなります。安孫子先生は、作田守先生 (大阪大学名

誉教授)、黒田敬之先生 (東京医科歯科大学名誉教授) に続き、JADR からは3人目のIADR 会長となります。先生はIADR・JADR 会員として大変アクティブに活動され、2003年から2004年まではJADR 会長を務められ、IADR における世界第2位の会員数を誇る Japanese Division としての実質化を大きく進められました。Asia Pacific Region (APR) の前身となる Pan Asia-Pacific Federation (PAPF) の設立にも貢献され、初代会長を務められています。その間、韓国、中国、東南アジア、オーストラリア・ニュージーランド部会等との密な連携のもと、現在のAPRとしての一体感とIADRにおけるAPRの地位の向上に大いに貢献され、さらにIADRの中では、他のRegionや本部組織と意見の交換を積極的に行い、実績と信頼を築きました。第96回IADR ソウル大会 (2016年6月開催予定) の実現に向けては、APRの一部会として積極的に支援を行い、韓国部会から感謝と信頼を得ています。

いうまでもなく安孫子先生は口腔生化学分野における世界的研究者であり、基礎研究はもちろんのこと、それを臨床に活かす研究まで行うという、applied scienceである歯学を具現されてきた研究者です。私事ではありますが、私は大学院生の頃より同じ研究分野に身を置くものとして先生の研究及び研究姿勢を身近に拝見することができ、一流の基礎研究者が臨床研究まで行うことの重要性を学びました。さらに、IADRをはじめ様々な国際学会に赴くと、「Yoshiはどうしている? (安孫子先生は親しみを込めてYoshiと呼ばれています)」と親



写真1: Helen Whelton IADR 会長 (前列中央) とともに



写真2: Christopher Fox IADR 事務局長 (前列右) とともに

しげに質問をされます。研究を通した、そしてそれを越えた信頼関係が世界中に広がっていることがわかるエピソードです。この幅の広さ、懐の深さ、そして信頼が、今回のIADR会長職へと繋がっているものと拝察いたします。日本人の多くがそうであるように、安孫子先生は自ら手を挙げて本職に就かれるのではなく、周りの人々に囑望されて就任されます。JADRとして最大の支持・支援をお約束するとともに、安孫子先生には、ご健康に留意され、ますますのご活躍を祈念する次第です。

今回のIADRでも、多くのJADR会員の活躍がありました。中島美砂子先生（国立長寿医療センター研究所）がDistinguished Scientist Award (Pulp Biology & Regeneration Award)を、吉田靖弘先生（北海道大学）がWilliam J. Gies Award (Biomaterials & Bioengineering Research Category)を、池田英治先生（東京医科歯科大学）がIADR/AADR *Journal of Dental Research* Cover of the Year, 2013を受賞され、開会式で表彰されました。Hatton Awardは残念ながら受賞には至りませんでしたが、大変レベルの高い激戦であったと講評されています。さらに、村上伸也先生（大阪大学）および今里聡先生（大阪大学）が基調講演をされました。

口頭発表やシンポジウムでは、程よいスペースの中、込み合っ立ち見ができることもなく、アクティブなディスカッションが繰り返されました。ポスター発表は、通常のIADR大会と比べてポスターのサイズが約半分の上、縦長であり、日本人には親しみやすいものでした。その分、ポスター前が

込み合うこととなりましたが、かえって活況があり来場者と親しくなる機会が増えたように思いました。詳しくは、本ニュースレター掲載の学会レポーターの先生方からのご報告をご覧くださいければと思います。

さて、IADR ケープタウン大会では、もう一つの大きな決定がありました。それは次期IADR副会長候補者3名の一人として、第2回IADR-APR大会会頭（2013年8月、バンコク、タイ）を務めたPasutha Thunyakitpisal先生（チュラロンコン大学、タイ）が選出されたことです。本会期中に開催されたAPR Board Meetingでは、IADR会長のHelen Whelton先生が陪席され、APRとして彼を支援するようメッセージがありました。これはAPRの一員として大変嬉しいことであり、JADRとしても、是非、応援したいと思っています。

IADRには、APR以外にAfrica/Middle East, Latin America, North America, Pan Europeanの計5つのRegionがありますが、もっとも親しく活発に交流しているのはAPRかもしれません。写真はIADR Council Meeting (IADR理事会)後のパーティーでの一コマ。最も遠い地域からはるばる南アフリカまでやってきた我々が、これほど元気なのは何故なのでしょう？

最後にJapan Nightでの私のメッセージの一部を再掲させていただきます。筆を置きたいと思います。

I believe, it is still important to come together and communicate in a face-to-face mode. This is not only for research and education of dental sciences, but also for understanding each other and creating our future society in a friendly atmosphere.....

II. IADR 会長の就任に際して

IADR 会長 安孫子 宜光

(日本大学松戸歯学部特任教授)

IADRは、オーラルヘルスの研究の発展、研究コミュニティの支援、研究成果の公開普及を3大ミッションとしており、研究活動のグローバルな不公平差を解決せねば、世界的な歯科医学のレベルの維持、発展はないという観点から、いかに研究の発展途上国を支援する戦略委員会(GOHIRA)が設立され、研究活動の支援に向けて具体的な方策が検討されている。IADRは、歯科領域の研究学会としての活動に止まらずFDIと強固な連繋を図って歯科臨床のさらなる発展を支援し、また、WHOとは口腔衛生に関係するテーマでシンポジウムも協賛している。また、会員サービスとしてIADR websiteを介して総会、シンポジウムなどの特別講演を動画で観れるIADR/AADR Knowledge Communityを提供している。そして、今年、新しい会員制度として直接アカデミックな研究活動には参加しないが歯科医学研究に興味をもつ開業医の先生方などを考慮してAffiliate membershipを発足させて歯科コミュニティの更なる発展を図っている。諸外国のIADR部会は、日本の日本歯科医学学会にあたる組織と歯科医師会が協力して国

の代表としてIADRに参加しているが、日本では、JADRは日本歯科医学学会の分科会に属していないが、IADR組織では日本の代表としての責任を果たしている。国際的な観点から日本歯科医学学会、日本歯科医師会、JADRは密接な連繋を図ってIADRに参加することが必要でありましょう。どの世界でも優れた人材なしには発展することはできない。現在の社会、経済環境の中で、歯科界の明日の優秀な担い手を数多く確保できるでしょうか？今、青年に歯科界はこんなに魅力的である、一生を懸けるに値すると示すことができるでしょうか？デンタルサイエンスの未来を次世代に示し、夢を与えることもわれわれIADR/JADRの重要なミッションでありましょう。その実現には歯科医学が自然科学の一分野であることを再認識し、IADR/JADRがリーダーシップをもって歯科科学研究を推進することの意義と責任は重いと思います。今後ともIADR/JADR会員のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

最後にIADR Cape Town総会で行いました会長就任式の挨拶を抜粋、紹介させていただきます。

“Expanding our Reach” I am very honored to stand here before you, as the president of the International Association for Dental Research, the third one from the IADR Japanese Division, that is the second largest Division in IADR. As the pre-eminent voice for dental, oral and craniofacial research, IADR’s mission is; 1st: To advance research and improve knowledge for the improvement of oral health worldwide; 2nd To support and represent the oral health research community; and 3rd To facilitate the communication and application of research findings. As IADR continues to serve the needs of the dental, oral and craniofacial research community, we are expanding our reach to also serve the needs of clinicians who have an interest in research. As many of you know, this year IADR launched its Affiliate Membership category designed especially for clinicians, advocates and educators. This new membership category was created for people who are not primarily involved in research but have an interest in keeping up with the latest research, including practicing healthcare professionals, dental professionals involved in Dental Practice – Based Research Networks : or Evidence-Based Dentistry, patient advocates, or healthcare educators with primary teaching responsibility. Through Affiliate Membership in IADR, clinicians, advocates and educators have access to the research published in the *Journal of Dental Research*, discounts off registration for professional development, opportunities to earn continuing education credits through the IADR Knowledge Community, a platform to network with a global community of dentists and researchers, and much more! When I was on the IADR ballot for a vice president, I mentioned in my personal statement that it was a dream of mine that IADR would be a place where clinicians with common interests or in similar industries could get together to share information and network. The new Affiliate Membership category helps to bring that dream to fruition , and I thank the IADR

Board of Directors and Council Members for working together to make this a reality. Now, I like to encourage all IADR members to help grow our Association. In addition to bringing clinicians to IADR, we need to make sure we keep basic scientists as the backbone of IADR society. As a multi-disciplinary organization, IADR serves a diverse population of researchers, educators and clinicians. However, it is encouraged that all members join at least one of the 30 IADR Scientific Groups and Networks in their field to stay current on science specific to their discipline. The IADR General Sessions provide a platform for the Scientific Groups and Networks to have business meetings. I hope everyone takes this advantage of those opportunities afforded through these meetings to interact with people in your Scientific Group or Network. If you have colleagues who are not IADR members yet, please explain to them why they should join IADR and if they aren’t primarily involved in research invite them to become an Affiliate Member. Bringing together researchers, clinicians, educators and others in the field will help us work toward IADR’s core mission of advancing research and increasing knowledge for the improvement of oral health worldwide. As we strengthen our mission and work to grow the association, let us also remember students and junior scientists. We all should give back to science, and education by serving as mentors to the younger generation and pouring knowledge into them. In addition, we should encourage them to join the newly developed IADR Student Training and Research Network, also known as the S, T, A, R, STAR Network. This will give them a platform to network among other budding researchers involved in the IADR community. In closing, I hope you all will hold onto the words, I have shared today and put them into action. I look forward to serving this great organization and working with you all to grow our membership. Thank you.

Ⅲ. 92nd IADR General Session 参加レポート

1. Arthur R. Frechette New Investigator Award, Winner を受賞して

大川 博子

(大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座
クラウンブリッジ補綴学分野)

第 92 回 IADR 総会において、歯科補綴学研究グループの Arthur R. Frechette New Investigator Award の Winner を受賞し、大変光栄に思います。本賞は、IADR 補綴学研究グループが若手研究者を顕彰する目的で設けられており、提出された abstract をもとに 5 人のファイナリストが選出され、各々は研究内容を論文にして審査員に提出します。最終的な審査結果



筆者：左から 4 人目

は、本大会における口演発表およびその論文原稿の内容から決定されます。受賞後に頂いたプラークに刻まれている歴代の受賞者のなかに、ちょうど10年前に受賞された私の指導教官である江草宏先生の名前もあり、江草先生と同じ賞を受賞できたことを嬉しく思います。本受賞は今後の研究の発展と私の研究者人生を応援してくださっているものであると考えて、励みにさせていただきます。

この度、受賞した“Vertical bone augmentation using iPS cell constructs with Simvastatin”の研究は、私が大学院生として興味をもって進めてきたものです。歯周病や腫瘍により失われた歯槽骨を再生するために、人工多能性幹（iPS）細胞の医療応用が期待されています。iPS細胞は私たちの体細胞にたった数個の遺伝子を導入することでどんな細胞にもなるという夢のような細胞です。しかしながら、iPS細胞を医療応用するためには、iPS細胞を目的組織へ分化誘導する技術の確立と、未分化iPS細胞による移植先での腫瘍化を回避しなければなりません。我々の研究グループは、高脂血症治療薬シンバスタチンがiPS細胞の骨芽細胞分化に及ぼす影響に着目した研究をすすめています。近い将来、本研究成果が安全なiPS細胞技術の確立に貢献し、歯科医療の発展の一助となることを期待しております。

最後になりましたが、このようなすばらしい研究の機会を与えていただいている大阪大学 大学院歯学研究所 顎口腔機能再建学講座 クラウンブリッジ補綴学分野の矢谷博文教授、萱島浩輝先生、ならびに、直接研究をご指導いただいております東北大学 大学院歯学研究所 分子・再生歯科補綴学分野の江草宏教授に厚く感謝申し上げます。

2. Pre-Prosthetic Regenerative Science (PPRS) Award First Place を受賞して

山本 治毅

(大阪大学大学院歯学研究所 クラウンブリッジ補綴学分野)

本年6月に南アフリカ、ケープタウンで開催されました、第92回IADR総会におきまして、IADR Prosthodontics Research Group Pre-Prosthetic Regenerative Science Award for Young InvestigatorsのFirst Placeに選出いただき、大変光栄に存じます。本賞は、IADRの補綴研究グループと日本補綴歯科学会の両者の後援のもと制定されたもので、再生補綴歯科治療の創成を目指した独創的で学際的な研究を行っている若手研究者に対して贈られるものです。本賞では、補綴学分野に提出された全ての口頭発表、ポスター発表の抄録をもとにファイナリストが選出され、各々の研究内容について5ページのextended abstract(概要書)を提出します。この概要書を審査員が審査し、順位が決定されます。

この度、受賞対象となった発表“Fabrication of Biomimetic Bone Graft Materials Using iPS Cells”は、私が大学院生として



授賞式会場にて (左より補綴学グループ会長 Dr. Wael Att, 筆者)



発表会場前にて (筆者)

興味を持って進めている研究課題であり、大変嬉しく思います。補綴歯科治療において、顎堤吸収により失われた骨欠損部を補うための骨補填材の需要は高まる一方です。本研究では、試験管内でiPS細胞から骨再生を促す成分を人為的に産生させ、細胞を不活化したうえで骨補填材に利用できないかと考えました。これまでの実験から、試験管内でiPS細胞を骨芽細胞へ分化誘導する際に、培養条件を変えることで骨組織に近い成分を有する細胞凝集体が得られることを明らかにしています。さらに動物実験から、不活化した石灰化iPS細胞が骨再生を可能とする骨補填材となり得る可能性を示唆する結果を得ています。このiPS細胞由来骨補填材は細胞生成物を不活化するためiPS細胞の腫瘍化の問題はなく、iPS細胞は無限に培養増幅することが可能であることから、これを原材料とした骨補填材は安価に製造できるという利点を有しており、臨床応用に近いiPS細胞技術として今後発展することを期待しております。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えて

くださった、大阪大学大学院歯学研究科 クラウンブリッジ補綴学分野の矢谷博文教授ならびに研究指導をしていただいております東北大学大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学分野の江草宏教授、そして助言を頂いた萱島浩輝先生をはじめ教員の方々に厚く感謝申し上げます。

3. 第 92 回 IADR 学術大会 (Cape town) 報告 Microbiology / Immunology –Mechanisms of Immunity

高橋 直紀

(新潟大学大学院医歯学総合研究科 歯周診断・再建学分野)

2014年6月25日から28日まで、南アフリカ共和国のケープタウンで開催された第92回 IADR 学術大会に参加しました。1回の乗り継ぎを経て、約20時間の長時間フライトということもあり、日本人の参加者は普段の IADR に比べて若干少ない印象がありました。南半球に位置するケープタウンは季節が日本とは真逆のため、晩秋の寒空の下を足早に学会場へと向かいました。

私が参加させて頂いたポスターセッション Microbiology / Immunology - Mechanisms of Immunity では計10題の発表演題がありました。私共のグループは、歯肉上皮細胞に発現している新規イオンチャネル Transient Receptor Potential (TRP) タンパクが細胞増殖に関与していることを明らかにし、Epithelial cell biology に重要な一因子であることを報告させて頂きました。上皮細胞に関する報告としては他に、英国 Liverpool 大学のグループからは2種類の骨粗鬆症治療薬が口腔上皮細胞に及ぼす影響を比較検討し、顎骨壊死の病態形成への関与を報告しました。また、徳島大学のグループは口腔上皮細胞の Toll-like 受容体シグナリングを 2-Methacryloyloxyethyl Phosphorylcholine (MCP) -Polymer が阻害することで、炎症性サイトカイン産生が抑制されることを *in vitro* で明らかにしました。臨床研究においても、MCP - Polymer が歯周病原細菌の口腔内への定着を抑制することを既に報告しており、歯周炎予防のツールとして近いうちに臨床応用が期待されるものでした。

スウェーデンの Karolinska 研究所のグループは、ラット実験的関節炎モデルを用いて、歯周炎がどのような影響を及ぼすか検討を行い、関節炎自体は重篤化させないが、全身の炎症性マーカーを上昇させることを報告しました。米国 North Carolina 大学のグループは HIV 陽性患者の歯周疾患の状態と末梢血中の免疫細胞の活性レベルに相関があることを見出し、歯周治療を行うことでそれが改善されることを明らかにしました。フィンランドの Helsinki 大学のグループは、1354人という大規模なコホート研究において、歯周病原細菌のひとつである *A. actinomycetemcomitans* の抗体価とメタボリックシンドロームの罹患に有意な相関関係があることを統計学的な

手法を用いて明らかにしました。

歯周疾患と全身疾患に関する報告は、疫学研究や動物実験をはじめとして、多くの研究施設および大学において積極的に研究が進められており、改めて世界的な関心の高さが窺えました。ただ、因果か相関か、その詳細なメカニズムに関しては未だコンセンサスは得られておらず、今後の更なる研究が期待されます。

今回参加させて頂いたセッションも含め、世界各国から集まった同分野の研究者たちと意見交換を経て、有益なアドバイスを頂いただけでなく、研究に対するモチベーションを更に高めることができた、非常に有意義な学会参加となりました。

4. 第 92 回 IADR ケープタウン大会に参加して

宮本 洋一

(昭和大学歯学部口腔生化学講座)

糖尿病で血中レベルが上昇するケトン体の骨芽細胞代謝への影響を発表するためのポスターを抱えた歯周病学講座の齊藤彰大先生の共同研究者として、私は第92回 IADR ケープタウン大会に参加しました。二人とも、IADR の学術大会に参加するのは初めてです。羽田からシンガポールを経由し、インド洋上空を横断、私たちは丸1日近い時間をかけて、ケープタウンに到着しました。晩秋から冬だと思いましたが、予想していた程には寒くありませんでした。6月25日から28日までの会期中、私たちは毎日片道15分ほど歩いて、ホテルと学会会場である国際会議場を往復しました。

私は主に、歯周病に関するいくつかのオーラル・セッションで勉強させて頂いたことにしました。歯周病と全身疾患の関係がいろいろな角度から研究されていることが分かりました。私なりに興味深く感じた発表をいくつか挙げたいと思います。O. Laugisch (スイス) らは、歯周病と関節リウマチの関係について *Porphyromonas gingivalis* のペプチジルアルギニンデアミナーゼによってシトルリン化されたタンパク質が抗原となり、関節リウマチの発症に関与するのではないかと報告をしました。P. S. Kumar (英国) らはメタゲノム解析により、喫煙が歯肉縁下の常在菌の数と種類が減少させることを示し、歯周病リスクとの関連を議論しました。D. Graves (米国) らは、炎症が骨形成を抑制するメカニズムを NFκB の抑制系および促進系で解析し、骨芽細胞において NFκB が骨基質タンパク質の発現を抑制する機序を報告しました。T. Spinell (ドイツ) らは、歯周病患者の血中に血管芽細胞系の血管内皮細胞前駆細胞が増加し、その程度が歯肉の炎症の程度と相関があることを見出しました。

会期中のある日の午後、二人で、露店が並ぶ昼間の街をぶらつき、中央駅のすぐ隣にある五稜郭によく似た城跡とその建物を利用した博物館の見学をすることが出来ました。元々、

オランダ東インド会社の総督が住んでいたようです。また、毎晩の食事もしみひのひとつでした。普段、食べ物にあまり関心のない男二人でしたが、変わったものを食べようと、暗くなった街を歩いたり、観光客で賑わうウォーターフロントに出かけたりしました。食べ物もワインもビールも美味しかったです。今回は、私たちにとって初めてのアフリカ旅行でした。なかなか行けない土地の風物を経験できるのも IADR 学術大会の魅力だと思いました。

5. 第 92 回 IADR General session (Cape Town) に参加して

齊藤 彰大

(昭和大学歯学部歯周病学講座)

2014年6月25日から28日まで南アフリカ・ケープタウンで開催された第92回 IADR General Session に参加してきました。今回は南アフリカで初めて開催された IADR 学術大会でしたが、日本からは飛行機を乗り継ぎほぼ一日がかりでの移動となるなど交通が不便なためか、南米や南アフリカからの参加者が非常に多い一方で、その他の国からの参加者は少ないように感じられました。会場は Cape Town International Convention Center という大きな建物で、口演・ポスター会場共に非常に広い部屋で行われており、どこに行っても多くの参加者がいて、初日から活気にあふれていました。

私は学会二日目の Seq#:100 Mineralized Tissue II で「Modulation of osteoblast functions by ketone bodies」というタイトルでポスター発表を行いました。このセッションは、12演題から構成されていて、日本や中国、韓国からの演題が大半を占めていました。75分という限られた時間の中、全てのポスターで活発なディスカッションが行われていました。私も、ポスターを見て頂いた国内外の先生方と交流することができ、多くのご意見・アドバイスを頂くことが出来ました。改めて自分の研究の課題や方向性を確認することが出来ました。私は今回が初めての国際学会での発表でしたが、非常に素晴らしい経験ができました。今後も更に研究を進め、また発表の機会を得たいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さった昭和大学歯学部口腔生化学講座の上條竜太郎教授、歯周病学講座の山本松男教授ならびに研究をご指導頂いた吉村健太郎先生、宮本洋一先生に心より感謝致します。また、研究に協力して頂いたラボの先生方に、厚く御礼申し上げます。

6. Implantology Research

大森 美由紀

(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

92nd IADR General Session & Exhibition は2014年6月25日から28日の4日間にわたり、南アフリカ共和国のケープタウンで開催されました。南アフリカといえば、2010年 FIFA ワールドカップ南アフリカ大会が行われたことが記憶に新しいと思います。その南西に位置するケープタウンはヨハネスブルグに次ぐ大都市で、テーブルマウンテンや喜望峰などが世界的に有名な地です。学会会場からもテーブルマウンテンやテーブル湾を臨むことができ、22時間のフライトでの疲れも忘れるくらいの美しさでした。南半球に位置するケープタウンは、学会開催中は冬であり、肌寒い日が続きました。しかし、学会は初日から活気あふれる研究発表と旺盛なディスカッションによって、熱気に包まれていました。学会初日の Welcome reception では、南アフリカの伝統舞踊とドラムセッションが披露され、盛り上がりを見せていました。

Implantology Research のセッションでは、口頭発表19題、ポスター発表56題、計75演題(withdrawn含む)の発表がありました。今回この分野からの日本の発表は5演題で、すべてがポスター発表でした。過去の学会と比較して日本からの演題が少なく残念でしたが、その分、海外の先生とのディスカッションが活発に行われていたように感じました。私の参加したポスターセッション(Clinical Trials - Biomechanics - Overdentures - Clinical Outcomes)では、日本以外に、アメリカ、ブラジル、イタリア、台湾など様々な国からの報告がされていました。基礎的な研究発表よりも、実際の症例に関する研究が多く、今後の臨床に生かせそうな演題もあったため、大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回、私は初めて国際学会に参加しました。発表を通じて、世界中から集まった先生方と意見交換を行うことができ、大いに刺激を受けたとともに、今後の研究へのモチベーションの向上へとつながりました。今後も機会があれば国際学会で発表を行いたいと思います。

来年のボストンでの発表を目指して研究に励んでいる後輩に、今回の学会で得たこと、経験したことを伝えていきたいと思っています。

7. Prosthodontics Research

小谷 祐子

(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

2014年6月25日～28日に、南アフリカ共和国・西ケープ州のケープタウンにあるコンベンションセンターで開催された、第92回 IADR で発表して参りました。

南アフリカ唯一の観光地であるケープタウンは、市内では中心部やウォーターフロントと呼ばれるエリアがにぎやかで観光客も多く、アフリカ最南端の喜望峰とケープポイント、ペンギンが生息するボルダーズビーチ、オットセイを観察できるドイカー島、アフリカ固有の種も多くあるカーステンボッシュ植物園、南アフリカ有数のワイナリーなど多くの観光スポットがある街です。学会開催中は気温が20℃程度で、少し寒かったのですが、雨が降ることはなく晴天でした。学会会場の Cape Town International Convention Center は、ケープタウン国際空港から20分程で、会場の周辺は綺麗で治安も思っていたよりも良かったので安心しました。オープニングセレモニーはアフリカ民族のパフォーマンスが行われ、とても華やかでした。

ポスター発表は2日目から4日目まで行われました。Prosthodontics Research のポスター発表は全部で54題ありました。今回私が発表させて頂いたのは、2日目の Prosthodontics Research の Clinical Studies in Prosthodontics でした。演題は全部で15題あり、ニュージーランド、イタリア、カナダ、デンマーク、南アフリカ共和国ブラジルなど様々な国からの演題で構成されていました。日本からも私の他に2名の先生が発表されており、どのポスターの前でも、活発なディスカッションがなされていました。このセッションは、総義歯、部分床義歯、インプラントなど補綴学での臨床研究に関する発表だったので、私自身も楽しむことができました。私のポスターも多くの方々に興味を持ってくださり、皆さんとてわかりやすい英語でフレンドリーに質問やアドバイスを頂きました。75分は思ったよりも早く過ぎてしまい、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今回初めての国際学会での発表でしたので、学会が始まる前は、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、実際参加すると皆とても優しく積極的に話かけてくださり、緊張も次第にとれて、私からも積極的に英語で話すことができました。IADR に参加・発表したことで、多くの研究者達と意見を交わす機会が得ることができ、大きな刺激を受けました。今後これらの経験を自分自身の研究に活かし努力していこうと思います。簡単ではありますが、IADR の参加報告とさせていただきます。

8. William J. Gies Award を受賞して

吉田 靖弘

(北海道大学大学院歯学研究科
口腔健康科学講座生体材料工学教室)

この度、南アフリカ共和国のケープタウンで開催された第92回 IADR 総会にて、2014 AADR/IADR William J. Gies Award を受賞しました。この賞は、当該年度の Journal of Dental Research に掲載された最優秀論文に与えられるもので、我々

の論文は Biomaterials & Bioengineering Research のカテゴリでご選出いただきました。お世話になりました皆様に厚くお礼申し上げます。

受賞対象となった HEMA Inhibits Interfacial Nano-layering of the Functional Monomer MDP (J Dent Res, 91 (11): 1060-1065, 2014) は、前任地である岡山で、岡山大学の歯学系と工学系の共同研究として行ってきた歯質接着研究の一部であり、私の留学先であったベルギー王国の KU Leuven との国際共同研究を通して得られた成果です。

歯質接着の分野では、我が国は世界のトップランナーであり、数多く研究成果が報告され、歯科医療の発展に寄与してきたことは周知の事実となっております。しかしながら、製品開発は各メーカーの努力により試行錯誤で進められたものばかりであり、成熟期に入ったと考えられている歯質接着システムも、確固たる理論的裏付けを基に製品設計を行われていると言いはし難いものがあります。例えば、接着性モノマーの歯質への作用が、他の分子の共存により、どのように変化するかを詳細に把握することは製品開発上、不可欠ですが、歯質との接着界面で起こる現象を分子レベルで解析した報告はほとんど見受けられません。本論文では、HEMA により、機能性モノマー 10-MDP と歯質との反応がどのように変化するか、さらに接着界面のナノ構造の形成がどのように影響されるかを報告しましたが、理論設計に基づく日本発高機能材料の開発・実用化に向けて、今後も研究を進めていきたいと考えております。



IV. 2014 年 IADR Council Meeting 報告

JADR 会長 高橋 信博

(東北大学大学院歯学研究科 口腔生化学分野)

日 時：2014 年 6 月 24 日 (火) 13:00 ~ 17:00
場 所：Cape Town International Convention Center (Cape Town, South Africa)

JADR からの出席者：高橋信博, 高田隆, 山崎和久(文責：高橋)

1. 議事次第の承認
2. 2013 年 IADR Council Meeting 議事録の承認
3. 選挙管理委員会からの報告
 - ・ IADR Vice-president として Jukka Meurman (University of Helsinki, Finland) を選出。
 - ・ 日本の投票率は 2011 年以降, 41%, 31%, 30% と高水準を維持。
4. IADR President からの活動報告
 - ・ とくに, 中国, インド, ロシアの会員増加が顕著なこと, 第 10 回 IADR World Congress on Preventive Dentistry (WCPD) (2013 年 9 月, プダベスト, ハンガリー) が有意義に開催されたことに言及。
5. Executive Director からの報告
 - ・ 2013 年 IADR シアトル大会が予想よりも参加者数および演題数が多く, 成功裏に終了。
 - ・ The IADR-GOHIRA initiative の実質化として WCPD (上記) を開催。さらに The Minamata Convention on Mercury (2013 年 10 月, 熊本) に参加。
 - ・ Journal of Dental Research 誌が 2 冊の Clinical supplement と 1 冊の Advances (2012 年 12 月開催の Dental Materials Innovation Workshop のプロシーディング集) を発刊。次の Clinical supplement を 2014 年半ばに発刊予定。Advances (Symposium commemorating 50 years of the University of Buffalo oral biology program のプロシーディング集) については 2014 年 5 月に発刊済み。
 - ・ IADR 会長が IADR Asia Pacific Regional Meeting (バンコク, タイ) をはじめ, IADR インド部会学会 (デリー, インド), モスクワでの会議, 中国での会議 (3 都市) 等に参加。
6. FDI からの報告
 - ・ FDI と IADR の関連について, IADR は歯学研究であるのに対し, FDI は研究成果の臨床応用であるというように互いに補完的。しかし, 目的は共通, すなわち, 全世界における口腔の健康 (world-wide oral health) を達成することであることを確認。そのためには, (1) oral health care の推進, (2) oral health care 従事者の役割の強化, (3) それに見合った歯学教育の構築, が必要であることに言及。
- ・ The Minamata Convention on Mercury (上述) では, 歯科用アマルガムに対する対策が提言。
- ・ 次回 FDI が 2014 年 9 月 11 ~ 14 日にインド, ニューデリーにて開催予定。
7. Member/Stakeholder Relations Committee (MSRC) からの報告
 - ・ 2003 年から 2013 年の 10 年間で会員数が 5% 増加したが, その内訳は大きく変貌。Latin American Region は 5% から 14% に増加。Asian Pacific Region と Africa Middle East は変化なし。一方, North American Region と Pan European Regions は継続的に減少。
 - ・ Membership survey の結果から, 継続している会員からは「IADR の役割として研究レベルを上げることが重要」とのコメントとおおむね満足との評価が多かったのに対し, 継続しなかった会員からは「会員へのサービスが不十分」との評価が多かったこと等が判明。とくに, 学生会員へのサービスが重要との報告。
8. Performance Monitoring/Audit Committee (PMAC) からの議題と報告
 - ・ IADR 運営に関し, 資料に基づき外部監査報告がなされ, 原案通り承認。
9. Strategic/Operational Planning Committee (SOPC) からの議題と報告
 - ・ 予算について資料に基づき説明がなされ, 原案通り承認。2014 年 IADR ケープタウン大会では大幅な赤字, 2015 年 IADR ボストン大会では大幅な黒字, 2016 年 IADR ソウル大会では小幅な黒字を予想。
 - ・ 年会費はこれまで通り, 年次毎に値上げすることが承認 (2014 年: 140 米ドル, 2015 年: 155 米ドル, 2016 年: 165 米ドル)。
 - ・ IADR Scientific Group/Network Membership を会員費に組み込むことが資料に基づき承認。2015 年から 1 つの Scientific Group/Network Membership は無料とし, 2 つ目からはプラス 20 米ドルと変更。
 - ・ 2019 年 IADR は, カナダ, バンクーバーにて開催することが承認。気候を勘案し, 通常と異なり, 6 月に開催。
10. Board Operations Committee (BOC) からの議題と報告
 - ・ 次期 IADR Vice-President 候補者として, 以下の 3 名を承認。Mina Mina, University of Connecticut, Farmington
Pasutha Thunyakitpisal, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand
Angus Walls, Edinburgh Dental Institute, Scotland
 - ・ IADR 各種委員会委員を原案通りに承認。
 - ・ 会員として, Institutional membership と Corporate membership に分けることを承認し, それに応じた会則変更を承認。
 - ・ 用語の変更を承認。
 - ・ Pan European Region に関する規定の変更を承認。
 - ・ Saudi Arabian Division の設立を承認。

- ・ Caribbean Section を Latin American Region に設立することを承認。

11. 逝去会員へ黙祷

12. Interactive Council Feedback Session

- ・ 出席者全員が小グループに分かれて IADR の運営等について討議 / 発表するワークショップを開催。議論の結果については執行部が取り纏め、運営に活用予定。

以上

V. 2014 IADR-APR Board Meeting 報告

JADR 幹事 高橋 信博

(東北大学大学院歯学研究所 口腔生化学分野)

日 時：2014年6月25日(水) 13:00～14:00
場 所：Westin Hotel Cape Town (ケープタウン, 南アフリカ)

議長：Pasutha Thunyakitpaisal (APR 会長)

JADR からの出席者：高橋信博, 高田隆, 村上伸也, 山崎和久 (文責：高橋)

1. 議事に先立ち、次期 IADR 会長 安孫子宜光教授の紹介があった。引き続き APR 各 Division の会長、理事から自己紹介があった。
2. 議事録の確認
3. 議事
 - 3-1. 次期 (2014年6月～2015年3月) APR President および Secretary の選出について (輪番制により Japanese Division より選出)
 - ・ 高橋日本部会 (JADR) 会長より、高田隆次期 JADR 会長を APR President に、山崎和久 JADR 会計理事を APR Secretary に推薦する旨の発言があり、承認された。
 - 3-2. 第94回 IADR ソウル大会および第3回 APR ソウル大会について
 - ・ Byung-Moo Min IADR/APR ソウル大会会頭より、本会は2016年6月22～25日を会期とし、順調に準備が進んでいる旨、説明・報告があった。
 - ・ 当該年度の各 APR Division/Section の年次学術大会は、本 IADR 大会と共催にする旨、確認された。
 - ・ 前回提案があった APR 学術シンポジウムについては、APR 内で2つ程度のテーマを定めてシンポジウムを開催する旨、了承された。APR 各 Division/Section から、APR の研究活性を示す演題を出すこと等について議論された。
 - 3-3. 2019年 APR プリスベン大会の開催日程について
 - ・ Camile S. Farah オーストラリア / ニューゼaland 部会会長より、本会は2019年、Brisbane International

Convention Center にて開催される旨、報告があった。

- ・ 第97回 IADR バンクーバー大会の開催が通常の2019年3月から同年6月に変更されたことから、同年7月に予定されていた APR プリスベン大会の日程を変更することとした。各部会からの意見に基づき、2019年11月下旬から12月上旬に開催する方向で調整することとした。会期は木曜日から土曜日の3日間とすることとした。

3-4. モンゴルセクションについて

- ・ モンゴルセクションにおいて、実質的に IADR 会員がいなくなり、セクションとしての存在が危ぶまれていることが報告された。APR としてモンゴルセクションの継続を考慮し、モンゴルセクション関係者とコンタクトを取る旨、合意した。対応案として、RDP (Regional Development Program: IADR がもつ、歯学研究・教育および IADR への参加を促進するプログラム) への申請等が挙げられた。

3-5. インド部会について

- ・ インド部会と連絡が取れず、また本会議にも出席していないことから、引き続き連絡する旨、合意した。

3-6. IADR 会長からの報告

- ・ 本会に陪席した Helen Whelton IADR 会長及び Christopher Fox IADR 事務局長より、第2回 APR 大会 (2013年8月, バンコク, タイ) が成功裏に終わったことについて感謝の意が表せられた。
- ・ Helen Whelton IADR 会長から、Pasutha Thunyakitpaisal APR 会長 (チュラロンコン大学, タイ) が次期 IADR Vice President 候補者の一人として選出された旨、報告された。APR として彼を支援して欲しい旨、発言があった。

4. 記念写真撮影後、解散

以上

VI. Hatton Award 最終選考を終えて

1. IADR Hatton Award 最終選考を終えて

有松 圭

(新潟大学大学院医学総合研究科歯周診断・再建学分野)

この度、南アフリカ共和国で2014年6月25日から28日に開催された第92回 IADR Cape Town 大会 Hatton Award 最終選考に参加させて頂き、大変光栄に存じます。選考委員の先生方や大会運営に携わって下さった方々に深く感謝致します。

今回発表させて頂いた "*P. gingivalis* induces systemic diseases via dysbiosis of gut microbiota." というタイトルの研究は、歯周病が全身に及ぼす悪影響の新たなメカニズムを明らかにした

ものです。

歯周病は、心筋梗塞や狭心症などの原因となる動脈硬化症、糖尿病、非アルコール性脂肪肝疾患、関節リウマチ、ある種のがんなど、実に様々な疾患の進行を促進すると報告されています。これまで、その関連メカニズムとして歯周組織から侵入した歯周病原細菌や、炎症性サイトカインが全身循環を經由して血管、脂肪組織、肝臓などに炎症を起こすということが考えられていましたが、はっきりとした証拠は示されていませんでした。

今回、我々は有力な歯周病原細菌の一つである *Porphyromonas gingivalis* をマウスの口腔に投与し、飲み込ませたところ、腸内細菌叢が大きく変化することが明らかになりました。加えて血清中のエンドトキシン活性が上昇し、各組織と全身における炎症及びインスリン抵抗性が惹起されることが明らかとなりました。

重度の歯周病患者さんの口腔内には大量の歯周病原細菌が存在し、毎日唾液とともに飲み込まれています。腸内細菌と全く異なる病的口腔細菌が腸内細菌のバランスを崩し、その結果、腸の透過性が亢進し、そこから入ったエンドトキシンが血流を介して様々な臓器・組織に軽微な炎症を持続させると考えられます。

本研究は歯周炎が全身疾患を進行させる新たなメカニズムの解明につながると考えています。

残念ながら入賞することはできませんでしたが、このような機会を頂き、多くの海外の先生方から貴重なご意見やアドバイスを頂き、今後の研究課題を学ぶことができました。さらに、他の Division の候補者の方々と交流することができ、とても貴重で、かつ有意義な経験をさせて頂きました。ポスター発表の際には Journal of Dental Research の Editor-in-Chief である Dr. William V. Giannobile から新しいコンセプトなので是非 Journal of Dental Research にも投稿してほしいとの言葉を頂いたことが強く印象に残っています。

この経験を糧として、今後も更に研鑽を重ねてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、御指導下さいました山崎 和久教授、多部田 康一先生、中島 貴子先生、吉江 弘正教授ならびに御協力頂きました共同研究者の方々に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

2. Hatton Award 最終選考を終えて

Mohannad Nassar

(Cariology and Operative Dentistry, Department of Oral Health Sciences, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University)

It was an honor to be selected to receive the 2014 IADR/Unilever Hatton Divisional Award from the Japanese Association of Dental



Research (JADR) in the senior-basic science category. This selection was made after a primary screening of all applications and a 10-minute verbal presentation of some selected applicants to a panel of experts who chose four researchers to receive the Hatton Divisional (JADR) Award. Through this award, I got the chance to compete for the global IADR Unilever Hatton Award at the IADR 92nd General Session and Exhibition, Cape Town, South Africa, June 25-28, 2014. Unilever Oral Care supported each divisional winners' airfare, hotel accommodations for four nights, and IADR meeting registration fees. The final competition took place in Cape Town International Convention Center (CTICC) one day before the official opening ceremony of the general session, in which each competitor from different divisions had to present his/her research in a 10-minute four-slide PowerPoint verbal presentation, followed by 5 minutes of questions and answers. The names of the winners were announced one day later during the opening ceremony and on the following day we had a special IADR Unilever Hatton Award celebration in which trophies were given to all competitors. For the senior-basic science category, the final winners were from National Institute of Health (NIH) and University of Rochester. A special poster session was held for all competitors where we had the opportunity to personally communicate with many pioneers in dental research. The whole experience from the beginning was full of excitement but needed a lot of hard work and perseverance and here I should thank the people who supported me during this process, starting from Professor Junji Tagami who is always a big support for the international students at Tokyo Medical and Dental University (TMDU), my supervisors Dr. Masayuki Otsuki and Dr. Noriko Hiraishi for the patient guidance, encouragement and advice they provided throughout the time I was preparing my work for the competition, Dr. Yukihiko Tamura from the Pharmacology Department at TMDU, I doubt I would have been able to complete the project in such a proficient and timely manner without his help and last but not least, I would like to express my gratitude to all my colleagues at the Cariology and Operative Dentistry Department at TMDU for the confidence they always give me. I consider myself

very fortunate for having the chance to study in Japan particularly at TMDU and I credit it for the success of this project as well as for my own professional growth.

3. 2014 IADR Hatton Awards Competition (Cape Town, South Africa) 最終選考を終えて

眞島 いつみ

(北海道医療大学大学院歯学研究科口腔生物学系微生物学分野)

この度、2014 IADR Hatton Awards Competition の最終選考会に Japanese Division 代表として参加させて頂きました。この Hatton Awards への挑戦は、Junior 時代の代表落選の雪辱を晴らすという意味でも、大学院生活においての一つの目標としていました。

この最終選考会で、私は、「Autoinducer-2 from novel *Veillonella tobetsuensis* Influences on Oral Biofilm」というタイトルで発表致しました。この研究は、昨年、私たちの研究室で発見された、新菌種 *Veillonella tobetsuensis* (Mashima I *et al.*, IJSEM, 63:1443-9, 2013) が *Streptococcus gordonii* と口腔バイオフィーム形成初期段階において、大量にそれを形成し、この二菌種間のバイオフィーム形成には *V. tobetsuensis* 由来の細菌間情報伝達物質である Autoinducer-2 様物質が強く関与しているという報告でした。

この最終選考会を迎えるに当たり、英語力という点だけでなく、4枚のスライドのみで10分間を作る構成員、表現力、如何に印象を強く残すかなど、プレゼンテーション法の試行錯誤を重ねました。その甲斐あって、本番では質疑応答も含

め練習した結果を十分に発揮することが出来ました。残念ながら、受賞は出来ませんでしたが、ポスター発表の際に、本番の審査員の方がわざわざお越し下さり、「とても impressive なプレゼンでした。また来年会いましょう。」とお言葉をかけて頂き、本当に嬉しかったです。

規定上もう、この IADR Hatton Awards に挑戦することはできませんが、この最終選考会を通して、「自分の研究を魅せる方法」というのを集中的に勉強することが出来ました。これからの研究者は質の高い研究をすることはもちろん大切なことですが、それを表現する力を身につけるのも同じくらい必要なことだと痛感させられた最終選考会でした。今回の貴重な経験を今後の研究生活に是非生かしていきたいと思っております。

末筆ですが、本選考会を迎えるに当たり、研究をサポートして頂いた、中澤教授をはじめとする北海道医療大学歯学部口腔生物学系微生物学分野の皆様、プレゼンテーションのブラッシュアップにご協力頂いた本学歯学部の多数の教員の皆様に厚く御礼申し上げます。

Ⅶ. 第62回 JADR 総会・学術大会開催のご案内

大会長 村上 伸也

(大阪大学 大学院歯学研究科 歯周病分子病態学)

会 期：2014年12月4日(木)～12月5日(金)

会 場：KKR ホテル大阪

〒540-0007 大阪市中央区馬場町2-24

大 会 長：村上 伸也 (大阪大学大学院歯学研究科歯周病分子病態学)

準備委員長：山田 聡 (大阪大学 大学院歯学研究科 歯周病分子病態学)

内 容：特別講演、シンポジウム、ランチョンシンポジウム、ポスターセッション、展示、その他

プログラム：

特別講演Ⅰ 12月4日(木)

座 長：村上 伸也 (大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座口腔治療学教室)

講演者：石井 優 (大阪大学大学院医学系研究科生命機能研究科免疫細胞生物学)

特別講演Ⅱ 12月4日(木)

座 長：安孫子宜光 (President, International Association for Dental Research)

講演者：Christopher H. Fox (Executive Director, International Association for Dental Research)



特別講演Ⅲ 12月5日(金)

座長：高橋 信博(東北大学大学院歯学研究科口腔生物学
講座口腔生化学分野)

講演者：Frank H. Yu (Korean Division of International Association
for Dental Research)

シンポジウムⅠ 12月4日(木)

Reconsideration of the periodontal medicine research:

Interface between epidemiological findings and pathogenic mechanisms

座長：山崎 和久(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔
保健学分野)

栗原 英見(広島大学大学院医歯薬保健学研究院応
用生命科学部門歯周病態学研究室)

演者：中山 浩次(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医
療科学専攻発生分化機能再建学)

松下 健二(国立長寿医療研究センター口腔疾患研究部)

葭原 明弘(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔
保健学分野)

片岡 伸介(ライオン株式会社生命科学研究所)

シンポジウムⅡ 12月5日(金)

New Frontiers of Bone and Mineral Research in Dentistry

座長：西村 理行(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免
疫制御学講座生化学教室)

山口 朗(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究
科口腔機能再建学講座口腔病理学分野)

演者：飯村 忠浩(愛媛大学プロテオサイエンスセンター
バイオイメージング部門)

波多 賢二(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免
疫制御学講座生化学教室)

大峽 淳(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔
生命科学専攻摂食環境制御学)

山田 聡(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免
疫制御学講座口腔治療学教室)

シンポジウムⅢ 12月5日(金)

The new horizons for dental treatment opened up

by biomaterials research

座長：今里 聡(大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能
再建学講座(歯科理工学教室))

演者：塙 隆夫(東京医科歯科大学生体材料工学研究所
素材研究部門金属材料分野)

松本 卓也(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医
用生体工学・生体材料学)

今里 聡(大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能
再建学講座(歯科理工学教室))

加藤 啓介(サンスター株式会社オーラルケア事業
部研究開発部)

VIII. 2015 IADR Hatton Awards Competition (Boston, MA., U.S.A.) 候補者決定

Hatton Awards 選考委員会

2015 IADR Hatton Awards Competition への IADR から本賞への応募者数は例年通り 4 名であり、選考委員により、1 次選考(書類)、2 次選考(英語による口頭発表会; 8 月 25 日(月))を行った結果、以下の先生方が候補者に決定しました。

2015 IADR Hatton Awards Competition (Boston, MA., U.S.A.) 候補者名

(五十音順、敬称略)

Junior 部門:

真喜志佐奈子
(新潟大学歯学部)

Senior 部門

Basic Science Research Category:

木山 朋美
(東北大学歯学研究科博士課程 4 年)

中島麻由佳
(新潟大学医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野)

古川 祥子
(九州大学大学院歯学府口腔顎顔面病態学講座)

CONTENTS

I. 第92回国際歯科研究学会 (IADR) ケープタウン大会から	1	I. The 92nd IADR General Session in Cape Town Prof. Nobuhiro Takahashi: JADR President	1
II. IADR 会長の就任に際して	2	II. Greeting of the New IADR President Prof. Yoshimitsu Abiko: IADR President	2
III. 92nd IADR General Session 参加レポート		III. Reports of the 92nd IADR General Session in Cape Town	
1. Arthur R. Frechette New Investigator Award, Winner を受賞して	3	1. Arthur R. Frechette New Investigator Award, Winner Dr. Hiroko Okawa (Osaka Univ.)	3
2. Pre-Prosthetic Regenerative Science (PPRS) Award First Place を受賞して	4	2. Pre-Prosthetic Regenerative Science (PPRS) Award First Place Dr. Hartuki Yamamoto (Osaka Univ.)	4
3. 第92回 IADR 学術大会 (Cape town) 報告 Microbiology / Immunology –Mechanisms of Immunity	5	3. Microbiology / Immunology –Mechanisms of Immunity Dr. Naoki Takahashi (Niigata Univ.)	5
4. 第92回 IADR ケープタウン大会に参加して	5	4. Reports of the 92nd IADR General Session in Cape Town Dr. Yoichi Miyamoto (Showa Univ.)	5
5. 第92回 IADR General session (Cape Town) に参加して	6	5. Reports of the 92nd IADR General Session in Cape Town Dr. Akihiro Saito (Showa Univ.)	6
6. Implantology Research	6	6. Implantology Research Dr. Miyuki Omori (Showa Univ.)	6
7. Prosthodontics Research	6	7. Prosthodontics Research Dr. Yuko Kotani (Showa Univ.)	6
8. William J. Gies Award を受賞して	7	8. William J. Gies Award Dr. Yasuhiro Yoshida (Hokkaido Univ.)	7
IV. 2014 年 IADR Council Meeting 報告	8	IV. Report of the 2014 IADR Council Meeting Prof. Nobuhiro Takahashi: JADR President	8
V. 2014 IADR-APR Board Meeting 報告	9	V. Report of the 2014 APR Business Meeting Prof. Nobuhiro Takahashi: JADR President	9
VI. Hatton Award 最終選考を終えて		VI. IADR/Unilever Hatton Awards Final Competition	
1. IADR Hatton Award 最終選考を終えて	9	1. Dr. Kei Arimatsu (Niigata Univ.)	9
2. Hatton Award 最終選考を終えて	10	2. Dr. Mohannad Nassar (Tokyo Medical and Dental Univ.)	10
3. 2014 IADR Hatton Awards Competition (Cape Town, South Africa) 最終選考を終えて	11	3. Dr. Izumi Mashima (Health Sciences Univ. of Hokkaido)	11
VII. 第62回 JADR 総会・学術大会開催のご案内	11	VII. Announcement of the 62nd JADR Annual Meeting Prof. Shinya Murakami: Chair of the 62nd JADR Annual Meeting	11
VIII. 2015 IADR Hatton Awards Competition (Boston, MA., U.S.A.) 候補者決定	12	VIII. 2015 Hatton Awards Candidates from JADR	12

●編集後記●

安孫子先生の IADR 会長年度がいよいよ始まりました。JADR からの 3 人目の IADR 会長の誕生を JADR 会員の皆様と一緒に心からお祝いいたしましょう。今回の Newsletter には本年 6 月にケープタウンで開催された第 92 回の総会学術大会における JADR 会員の活躍の様子が報告されています。JADR 会員の中から多くの受賞者が出るとともに、遙か遠い場所での開催であったにもかかわらず若手の会員を含む多くの方が参加され、しっかりと JADR のプレゼンスを示されていたことは、JADR の明るい未来を示しています。12 月 4 日は村上先生が大会長を務められる第 62 回 JADR 総会・学術大会が大阪で開催されます。多数の会員の参加のもとで、高橋会長の IADR 報告にある「It is still important to come together and communicate in a face-to-face mode.」を大阪で実感し、楽しく充実した時間を共有いたしましょう。

発行 国際歯科研究学会日本部会 (JADR) <http://jadr.umin.jp/>

連絡先: 〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302

アカデミック・スクエア (株) 内 TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 E-mail: jadr@ac-square.co.jp

JADR 副会長 高田 隆 (広島大学歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

連絡先: 〒734-8553 広島市南区霞 1-2-3 FAX: 082-257-5619 E-mail: ttakata@hiroshima-u.ac.jp

2014 年 9 月 30 日 発行

